

開催挨拶

沢田 治雄（森林総合研究所¹所長）

本日は大変お忙しい中、また足元の悪い中、この会場までご来場いただき、心から感謝申し上げます。また、わざわざ本日のセミナーのためにお越しいただいた外国のゲスト、特に本基調講演を頂く Frances Seymour 先生、Ruandha Agung Sugardiman 先生に感謝申し上げます。

私たちは地球規模の課題が国際社会に深刻な影響を与える時代に生きている。そのため、例えば 2015 年には、気候変動対策の推進、森林減少の防止、森林劣化からの回復等を含む 17 の持続可能な開発目標²（SDGs）を国連総会で採択し、国際社会で取り組んでいる。また、同じ 2015 年の国連気候変動枠組条約第 21 回締約国会議³（COP21）では、京都議定書⁴に続く 2020 年以降の新しい気候変動対策の国際枠組みとなるパリ協定⁵を採択した。そして昨年末、ポーランドで行われた COP24⁶では、その実施計画について合意を得たところである。

REDD+はパリ協定第 5 条でその実施と支援が奨励されており、途上国における森林の減少と劣化の抑制による温室効果ガスの排出削減や、持続可能な森林経営、森林保全、森林炭素蓄積の増強などを対象としている。つまり、REDD+は気候変動対策だけではなく、生態系や生物多様性の保全、地域住民の貧困削減なども重視した活動となっている。そして現在、本格的な実施に向けた取り組みを進めることが期待されている。

このような中で森林総合研究所は、2010 年に REDD 研究開発センター⁷を設立し、森林炭素蓄積量を効率的に計測する手法の開発や、森林減少・森林劣化に関わる社会経済的分析などの研究活動を進めてきた。同時に、民間セクターの参入促進のため、REDD+に関わる研究者や技術者をつなぐハブの役割も担っている。そして民間企業・団体、政府機関、研究機関、関係省庁等とオールジャパンでの REDD 活動を推進するために、「森から世界を変える REDD+プラットフォーム⁸」を国際協力機構⁹と共に推進し、私どもは科学的知見の普及啓発を行っている。これらの活動には国内だけではなく、もちろん国際的な連携も極めて重要である。そのため、海外の研究者にもご参加いただくことを日頃から意識している。

このような背景から、本日のセミナーでは、基調講演で、世界資源研究所¹⁰の名誉上席研究員である Frances Seymour 様から、「なぜ森林なのか？ なぜ今なのか？ REDD プラスの科学・経済学・政治学の最新動向」と題して、国際的な見地からご講演いただく。続いて、インドネシア環境林業省気候変動総局長の Ruandha Agung Sugardiman 博士から、「インドネシアにおける REDD プラスの歴史と大きな機会」と題して、REDD+実施体制について、REDD+実施国の立

¹ <https://www.ffpri.affrc.go.jp/ffpri.html>

² <https://www.un.org/sustainabledevelopment/>

³

<https://unfccc.int/process-and-meetings/conferences/past-conferences/paris-climate-change-conference-november-2015/cop-21>

⁴ http://unfccc.int/kyoto_protocol/items/2830.php

⁵ <https://unfccc.int/resource/docs/2015/cop21/eng/l09r01.pdf>

⁶ <https://unfccc.int/event/cop-24>

⁷ <http://redd.ffpri.affrc.go.jp/>

⁸ <https://www.reddplus-platform.jp/>

⁹ <https://www.jica.go.jp/index.html>

¹⁰ <https://www.wri.org/>

場からご講演いただく。

その後、セッション 1 では REDD+の技術面を取り上げ、どこまで来たか振り返り、森林計測技術やセーフガードについて情報を提供いただく。セッション 2 では、REDD+の施策面・資金面を取り上げ、どこまで来たかについて情報を頂き、総括していく。こうした議論が、SDGsにも掲げられた世界の森林保全や社会福祉の向上、パリ協定をはじめとする気候変動対策推進の一助になれば幸いである。

最後に、本セミナーの開催に当たり、共催していただいた国際熱帯木材機関¹¹、国際協力機構、「森から世界を変える REDD+プラットフォーム」の皆さま、そして後援を賜った林野庁¹²、外務省¹³、経済産業省¹⁴、環境省¹⁵ならびに日本森林学会¹⁶、日本リモートセンシング学会¹⁷、日本熱帯生態学会¹⁸、森林計画学会¹⁹の各関係機関の皆さまに御礼申し上げます。本日も来場いただいた皆さまに改めて御礼申し上げるとともに、本日のセミナーが皆さまにとっても有意義な会となることを祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

¹¹ <https://www.itto.int/ja/>

¹² <http://www.rinya.maff.go.jp/>

¹³ <https://www.mofa.go.jp/mofaj/>

¹⁴ <http://www.meti.go.jp/>

¹⁵ <http://www.env.go.jp/>

¹⁶ <https://www.forestry.jp/>

¹⁷ <http://www.rssj.or.jp/>

¹⁸ <https://gakkai.jst.go.jp/gakkai/detail/?id=G01330>

¹⁹ <http://www.forestplanning.jp/>